

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(横手市)

1 市の概要(人口 84,710 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4 園	4 園	4 園	25 か所	0 園	0 園	14 校

その他:事業所内 認可外

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。
- (2) 幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。
- (3) 小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)

平成28年度から6年間取り組んできた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」から見えてきた成果を踏まえ、県と連携しながら幼児教育施設への巡回指導や地域での研修等を継続実施することで、教育・保育の質の向上、幼小の円滑な接続の推進への更なる充実・強化を図る。

主な内容(3年間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名を配置し、事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。
 - ・教育指導課(小学校教育指導担当課)と子育て支援課(幼児教育保育担当課)との連携体制を確保する。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、幼児教育施設における要請訪問を中心とした園内研修支援を継続的に実施する。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、市内幼児教育施設の課題に応じた研修会を開催する。
 - ・小学校区を中心とした近隣施設間で保育参観・協議への参加を進め、地域で学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実
 - ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼小連携自主事業への支援を行う。
- (5) 県との連携体制の確保
 - ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。
 - ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。

・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の課題解決や研修会運営のための情報共有を図る。	
年度別重点	
令和4年度	事業体制を見直し、地域で学び合う体制づくりの新たな課題に向けた研修会への取組、訪問支援への取組の基盤体制づくり
令和5年度	前年度事業の課題を見直し、地域の実態に合った接続推進、訪問支援への継続実施
令和6年度	2年間の事業実施の成果と課題を明らかにしつつ、より現場のニーズに合った研修、訪問支援の強化

4 令和5年度の具体

目 的	
本市において継続実施してきた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制の更なる構築を目指す。	
実施内容及び実施状況(中間)	
(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」 ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの強化 ◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携 ◇健康推進課との連携、5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通級等を通しての連携 ○5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。また、年長児、年中児について配慮の必要な子どもたちを中心に参観したり、担任と面談したりしながら支援を行っている。また、必要に応じて関係機関につなげている。年中児から園訪問をし、参観聞き取りをするとともに、日常の保育に関して有効と思われる支援・援助の情報を提供している。また、年長児については、就学児健診前に各小学校へ情報を伝えている。 ●市民福祉部幼保担当課との情報交換をし、更なる連携を深めたい。 ・「横手市幼小接続推進協議会」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年2回の協議会開催と各団体との会議・研修会開催） ◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和5年6月15日 【会場】横手市条里南庁舎会議室 【参加者】協議会委員（10名中9名）事務局（10名） ○今年度は、事務局に健康推進課から保健師2名にも入ってもらい、より子どもを支えるという視点に基づいて協議を行った。また、国が進めている「幼保小の架け橋プログラム」についても、本協議会を母体として進めていくことを確認した。 ●各団体での共通理解をさらに図ってもらえるよう、より働き掛けていく必要がある。 ◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和6年2月6日実施 【会場】横手市条里南庁舎会議室 【参加者】協議会委員（10名）事務局（10名） 【内容】今年度の接続推進の成果と課題	

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・教育指導課に教育・保育アドバイザー2名の継続配置
- ・「公開保育研修会（公開保育）」の実施による園同士の更なる学び合いの場づくり
- ・要請訪問に向けてアドバイザーが事前訪問し、園内研修会の持ち方や諸帳簿作成等について支援
- ・要請訪問での保育者との振り返り、研修後の園長・主任等との振り返りを重視し、次につながるものとなるよう具体的に支援
- ・訪問後もアドバイザー独自で、保育や園内研修を継続支援
- ・保育士等との面談、気になる子の保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（横手市）

派遣実績 計 54 施設／全 54 施設 500 回	
回数	・幼稚園：私立4園（37回） ・保育園：公立3園（27回）、私立22園（270回） ・幼保連携型認定こども園：私立4園（30回） ・その他の施設：（へき地保育所 園（回）児童館 場所（回）、小規模保育施設 場所（回）、認可外保育施設4場所（24回）、事業所内保育施設2場所（12回）） ・小学校：14校（100回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33園（65回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、32園（32回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、7園（10回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、28園（30回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、39園（305回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、7園（8回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14校（50回））
理由	ほぼ全園で公開保育をすることができ、その実施のための事前訪問を丁寧に行うことに努めた。 また、認可外や事業所内保育施設への保育状況や聞き取り調査を実施することも今年度行うことができ、就園に向けた状況把握もできた。周知活動は、こちらの伝達説明だけではなく、園や小学校の考えを聞き取りながら、アドバイスすることに努めた。

令和5年度 公開保育研修会実績					
					2023/12/15
No.	期 日	会 場 園	他園からの参加（人数）	総計	小学校の参加態勢等
1	6月13日	さんない保育園	白梅保育園（3）	14	山内小学校校長 栄小学校教頭
2	6月21日	大森保育園	川西保育園（3）	14	大森小学校校長・研究主任
3	6月22日	吉田保育所	醍醐保育園（1）	9	吉田小学校校長
4	6月28日	川西保育園	大森保育園（3） たいゆう保育園（3）	14	大森小学校校長・1年担任
5	6月30日	常盤保育園	なし	9	横手北小学校
6	7月4日	ますだ保育園	三重保育所（2）	19	増田小学校校長
7	7月13日	横手マリア園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（3）	15	横手南小学校教頭
8	7月19日	醍醐保育園	雄物川保育園（1） 吉田保育所（1） 樽見内保育園（1）	12	醍醐小学校教頭
9	8月2日	にしの杜保育園	十文字保育園（3） こひつじ園（2） 三重保育所（1） ますだ保育園（1）	16	十文字小学校教頭
10	8月8日	三重保育所	十文字保育園（1） こひつじ園（1） にしの杜保育園（1） ますだ保育園	13	十文字小学校校長
11	8月10日	旭保育園	たいゆう保育園（2）	12	旭小学校校長
12	8月29日	十文字保育園	三重（2） にしの杜（1） ますだ （1） こひつじ（1） 相愛（2） 和光	6	十文字小学校教頭
13	9月5日	みいりの保育園	なし	15	朝倉小学校校長
14	9月6日	たいゆう保育園	大森保育園（3） 川西保育園（3） 雄 物川保育園（1） 旭保育園（3）	20	大雄小学校校長・教諭
15	9月12日	認定こども園こひつじ	にしの杜保育園（1） 十文字保育園（2）	9	十文字小学校教頭
16	9月13日	相愛こども園	市内各園（園長・保育士）（22） 沖純堂（9）	56	各市内小学校教頭・教諭（8）
17	9月20日	雄物川保育園	沼館（1） たいゆう（3） 樽見内（1） 醍醐（1）	15	雄物川小学校教頭
18	9月21日	上宮第二幼稚園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（1） 深沢市内幼稚園（3）	12	横手南小学校教諭
19	9月22日	上宮第一幼稚園	土屋幼稚園・保育園（2） 明照保育園（1） マリア園（1）	9	横手南小学校教諭
20	9月27日	明照保育園	土屋幼稚園・保育園（2） 上宮第一・第二（3） マリア園（2）	17	横手南小学校教諭
21	9月28日	樽見内保育園	浅舞感恩講（1） 下鍋倉（1） 醍醐（1） 雄物川（1）	10	浅舞小学校研究主任
22	10月5日	アソカ保育園	白梅保育園（1）	14	朝倉小学校教務主任
23	10月14日	和光こども園	金沢（1） 常盤（1） 十文字（1） 相愛（2）	16	横手北小学校研究主任
24	10月18日	土屋幼稚園・保育園	上宮第二（1） 明照（2）	13	横手南小学校教諭
25	11月28日	横手幼児園	みいりの保育園（2） アソカ保育園（1）	14	朝倉小学校教頭
26	12月1日	下鍋倉保育所	浅舞感恩講（1） 樽見内（1）	11	浅舞小学校教頭
27	12月14日	沼館保育園	和光（1） 雄物川（1） むつみ（2）	16	雄物川小学校教頭
28	12月15日	浅舞感恩講保育園	下鍋倉保育所（1） 樽見内保育園（1）	12	浅舞小学校校長

○事前訪問を通して、市として目指したい研修内容や方法について具体的にアドバイスすることができた。また、担任との振り返りも、午後の協議に向けての課題を見付ける場としても効果的であった。さらに園長・主任等との振り返りにより、自園の職員のよさを価値付けたり、今後への期待を持ってもらったりする機会となっている。

○ほぼ全ての園で公開保育を行っており、小学校を交えて地域で学び合う体制作りが強化された。

●要請訪問を保育者自身が実際の保育の課題を見つめ直す機会にしたり、チームでよりよい保育を考えていこうという研修にしたりすることが次のステップとなる。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

- ・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和5年5月25日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員）32名

【内容】講義「各園の特色を生かした研修計画（特に週日案）の立案」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 自園の計画内容を紹介しながら意見交換し、見直しに生かそう



研修計画を見合いながら演習

☆参加者の感想

計画を立てる上で、子どもの姿・実態をしっかり捉えることの大切さを改めて感じた。他園の週日案を見せていただく機会は、とても貴重で、それぞれの園の伝統や特徴が表れていた。他園のよさを取り入れたいところも見付かった。

◇第2回横手市保育実践力向上研修会：令和5年9月29日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員

（採用2、3年目の職員）25名

【内容】講義「乳幼児の教育・保育で大切にしたいこと」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 レッツ トーク！



☆参加者の感想

自分の今に当てはまる内容が多く、共感したり、今後意識したりしようと前向きになれた。同年齢の方と話すことで、心が少し楽になったように感じる。気持ちを受けとめられるって大切だなあと改めて感じた。

互いの園のよさや悩みをトークし合う

◇第3回横手市保育実践力向上研修会実施：令和6年1月18日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員 35名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション」

秋田県教育庁南教育事務所

指導主事 石山 潤 氏

☆参加者の感想

園内研修でファシリテーターをするとき、担任と事前に打ち合わせや話し合いをしておくこと、ポイントを確認しておくこと等、準備が大切であることを学んだ。話合いの内容に応じながらも、最終的にはクラスのねらいに沿った内容に掘り下げることができるよう、事前に質問を考え、出た意見から願い・計画へとつながる話題の引き出し方や広げ方を意識することを大事にしていきたい。ファシリテーターを行うときは、保育計画と保育者の意図を確認し、そこから協議を焦点化すること、意見を引き出しまとめていくことを大切にしたい。

- ・ 保育協議会、保育士会、横手市教育推進委員会等との協力による研修会実施

◇横手市保育地区セミナー

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員 58名

小学校教諭 10名

【内容】保育研究大会発表園からの発表
テーマに基づいたグループ協議 等

◇幼小連携特別委員会研修会

【会場】浅舞地区交流センター

【参加者】連携委員会委員（小学校教諭） 9名

【内容】講義・協議「幼保小の架け橋プログラム」作成に向けた取り組み状況について

○各施設から参加があり、日々現場で感じていることを同年代の保育者同士で話し合う機会は貴重であると感じた。また、保育も含め物事の感じ方や相手とのコミュニケーションに難しさを感じている実情が分かり、より保育者に寄り添って支えていくことが大切であると感じた。

○研修計画について、なかなか他園のものを目にするということがないということで、とても好評であったし、横のつながりになる研修会となった。

●これが最善ということと言い切れない、それぞれのケースに応じることの多さに、より日常の中で力になることが必要と感じる。来年度のテーマを考えたときに、これまでのものを継続するよさと見直す必要性両面から考えていきたい。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・ 幼小教職員の合同研修会の継続開催

◇横手市幼小合同研修会：令和5年8月17日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】小学校研究主任等14名

幼児教育施設主任または副主任33名

【内容】講義「幼保小の架け橋プログラム作成に向けて」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川由美子

協議 プログラム作成に向けた協議



視点に基づきプログラム作成に向けて協議し合う

☆参加者の感想

目指す子どもの姿の共通点を確認められて、大変有意義だった。必要とする経験を挙げることが難しかった分、そのような思考の仕方の大切さにも気付くことができた。顔の見える研修、子どもが中心の研修だった。

○「幼保小の架け橋プログラム」についてよく分からないという方も多く、基本的なことについて理解を進めることができたことと、これまで本市が行ってきた幼小接続の取り組みがプログラム作成のベースになることを共通理解できた。

●協議では、小学校区ごとにプログラム作成に必要なことを話合った。目指す子どもの姿についての共通部分については見付けられていたものの、そのために大切にしたい経験や学びのプロセスについては、先生方を悩ませてしまった。より具体的に理解を深めていけるような取り組みが必要だと感じている。

- ・小学校区内での職員体験事業継続実施

◇小学校教職員参加者 35名
幼児教育施設職員 32名 参加

☆体験報告書より

今回の体験を通し、園の先生方は子どもの自主性を重んじ、温かく見守る姿勢を基本としているように感じた。普段の自分は、45分の授業時間の中でめあてを達成させなければいけないという意識にしばられ、考え方のルールを敷いたり行動を急がせたりしている部分が多いような気がした。



小学校教師による保育体験

○今年度は、コロナ禍を過ぎ、どの施設でも体験事業に参加してくれた。継続実施による幼小の職員同士の関係も良好になってきており、その後の交流にもつながっている。

- ・互いの授業参観・保育参観の継続

○各小学校区ごとの公開保育研究会、要請訪問、計画訪問を通して、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議に参加し合うことが多くなってきた。

●小学校への幼児教育施設の先生方の参観、さらに研究協議への参加がより進むよう働き掛けていく必要がある。



保育者による小学校体験

- ・各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援

○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介していくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。

●年度末の連携委員会にも参加し、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら各小学校の温度差の改善に努めていく。

- ・横手市幼小連携だより「よこてのめんこ」の提起発行（月1回）

○アドバイザーが幼児教育施設（40）と小学校（14）を直接訪問し、渡している。その際、日常の保育、教育について話題にしながら園の課題解決につなげる努力を継続している。

○中学校にも配布したり、子育て支援課、健康福祉課へも情報提供し、より多くの市民の目にも触れるよう努めている。

（５）「県との連携体制の充実」

- ・県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加

- ・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化

- ・県要請訪問への同行訪問

- ・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施と参加

◇令和5年9月28日：横手市樽見内保育園（他市アドバイザー等7名の参加）

◇令和5年10月20日：大仙市大曲南保育園

◇令和5年10月26日：大館市有浦保育園

◇令和5年11月7日：能代市淳城幼稚園・ていじょう保育園

- 年度始めに南教育事務所指導主事と訪問について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができた。また、年度途中でも、訪問した際の園の様子について共通理解することができ、訪問する際の見通しをもつ機会となった。
- 他市町村の実践を参考にしながら、研修、訪問を進めることができた。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年度)の成果と課題

- 地域の公開保育研究会の開催がさらに広がり、幼小の接続、幼児教育施設同士の横のつながりが強まった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が広がっている。
- 研修会の内容を基本にして、今年度の園内研修が進められており、各園の訪問でもそこに合わせた指導助言をすることができた。事前のアドバイザーの訪問によるアドバイスが研修の焦点化を図ることにもつながっている。
- コロナ禍を過ぎ、新しい形の連携、交流等が行われてきている。一方で、幼児教育施設での保育参観、協議参加は増えているものの、小学校への幼児教育施設職員の参加が増えていない感じがする。広報紙を活用しながら、小学校への声掛けを広げていきたい。
- 研修会や公開保育等の開催回数が増えることと、そこへの参加が負担にならないかを危惧している。一番は、自園の保育のためであるので、持続可能な実施を進めていけるよう心掛けていきたい。
- 「幼保小の架け橋プログラム」作成に向けては、カリキュラム完成が目的ではないので、これまで本市が大切にしてきたこと（互いの教育・保育を参観し合い、子どもの学び（資質・能力）を協議し理解し合うこと）を今後も大切にしていきたい。